

進路だより

第1号 2017. 7. 19

こんにちは、進路指導部です。今年は第1号が遅くなってしまいましたが、「進路だより」では大学入試に関連する情報を発信していきます。ぜひ読んでくださいね。

◎模試は受験後が大事

◆模試の活用

得点や偏差値、合否判定ばかりに目が向きがちですが、客観的に自分の成績を分析する力を身に付け、課題を一つずつクリアし続けていくことが合格には不可欠です。

- | | | |
|-------------------------------------|---|-------------------------------|
| ① 弱点分野を知り
② 解決策を考え
③ 具体的な行動へ！ | } | この3 step を積み重ね、
力を伸ばしていこう。 |
|-------------------------------------|---|-------------------------------|

模試復習のタイミング

- ・受験直後（いま！）
- ・成績が返却されたとき
- ・ある程度期間を空けて

◎4年生 「知る」と「比較」がキーワードの1年に！

◆将来をじっくり考える夏に

- ・職業を語る会、未来辞典 career などを通じて知った社会や働く人の思いから、自身の将来を考えることへつなげる。

◆先入観で将来を決めない

- ・「自分は理系だ」などと安易に考えていないだろうか。興味のある分野だとしても、理系に進むために必要な数学的思考が弱いと後々行き詰まり後悔することになりかねない。
- ・関心キーワードや適性検査、模試などを通じて客観的に自分を知ることを大切にしよう。

◆イメージで決めない

- ・たとえば「心理学」といっても、大学ごとに学びの内容はかなり異なる。また似ているネーミングでも学びの内容が全く異なることが少なくない。
- ・夢ナビライブやオープンキャンパスに行き、学部や学科の学びの内容をじっくりと比較することが大切だ。

★基礎学力の徹底が今後を左右する

現在 学習時間が平日 60 分以上で、授業理解度が高く、宿題 + α の学習ができている

真面目になっているようでも、学習方法を改善しないと高校では伸びにくい！

現在 30 分以内の学習時間でもこの夏に理解不足を補い、今後学習時間を伸ばせば可能性が広がっていく。

秋までの目標 ⇒ 学習時間を平日 90 分、休日 150 分以上にする
学習量のみならず、質を向上させることを意識して学習する。

◎5年生 「分析」と「基礎」がキーワードの1年に！

◆この夏が苦手を克服できる最後のチャンス

- ・受験で求められる力を考えると、苦手克服に時間を割けるのはこの夏が最後。
ここが正念場と覚悟を決めて夏休みを過ごし、冬休みから受験生へチェンジ。

◆客観的データに基づいた準備を

- ・大学のパンフレットやHPだけでなく、「入試データ資料」を使って受験科目、受験形態別の倍率など、細部までしっかり確認しておく。

◆外部模試を受け始めよう

- ・校内模試は基本的に受験者が最も多い「ベネッセ」だが、5月に「河合塾」の模試が導入されているのは、これを機に外部模試も受けることを勧めているから。
今後は2種類の模試成績から、自分の状態、改善点を探り、学習に活かそう。

- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 自分の克服すべき課題② 強みを生かす入試とは？③ 始めるべき準備とは？ | } | <p>自分の成績、志望校の入試をしっかりと分析し、
必要な準備を早めに始めた分だけ「合格」の
可能性が高まる！</p> |
|---|---|---|

◎6年生 「情報収集」と「克己」がキーワードの1年に！

◆「できていない」「わかっていない」自分を認める勇気を

- ・不安を少しでも減らすには、目の前の課題に1つ1つ取り組み、「できる自分」「わかった自分」を増やして、少しでも自信に変えていくこと。
- ・「判定」に負けず、模試は自分の現状と課題を知るために最大限活用する。

◆最後に点差を分けるのは「基礎力」

- ・今年は早期から赤本を借りる人が多いが、基礎を軽視し、応用だけに走っていないか、再度確認しよう。
- ・基礎力エンジンを止めると、基礎のヌケやモレに足元をすくわれてしまう。入試当日まで基礎を疎かにしない学習を大事にしよう。

◆確かな情報収集

- ・近年は新設学部や改組、入試制度の変更が多い。
- ・「入試データ」をしっかりと見て、入試システムや利用する入試形態をじっくりと考えよう。同じ大学の一般入試でも、第1期と第2期では倍率が異なるところが多い。安易に「どちらを受ければいい」などと考えて出願することがないよう、今のうちから2学期に「併願戦略」を立てるための準備をしていこう。

※ 2学期から受験に向けてどう準備するのか「進路ノート」112ページを見て確認しておこう

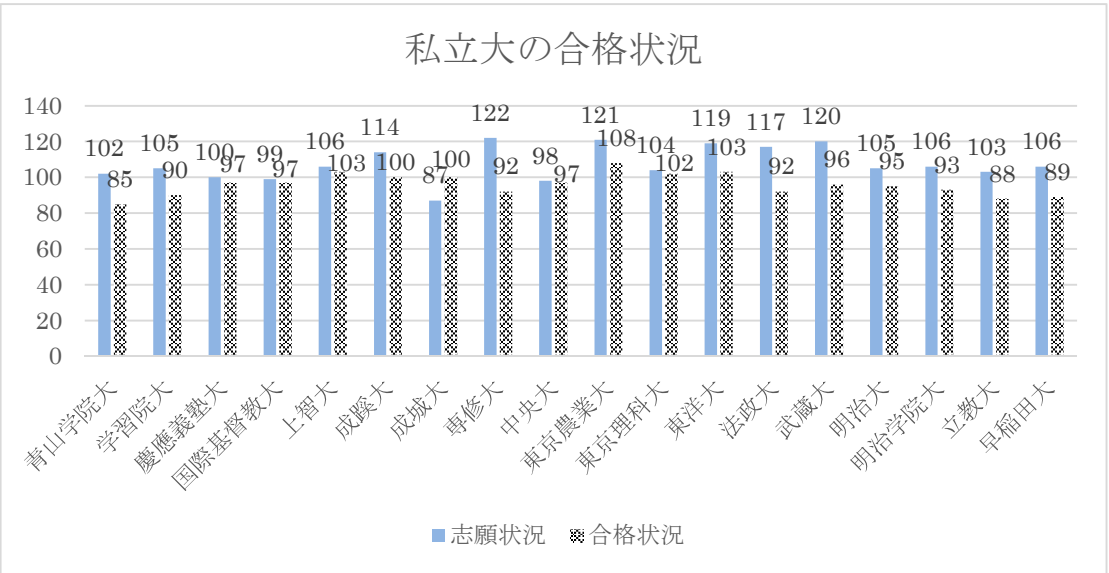
※ 「入学定員厳格化」の影響が昨年どのような状況であったか、裏面で確認しておこう。

◎前年度の状況を踏まえ、次を考えよう～

◆入学定員厳格化の影響

下記のグラフは2017年度入試のデータです。前年度の志願状況と合格状況の前年数を100として表したものです。入学定員厳格化の影響を受けて、志願者が増えても合格者が絞られているのがわかります。2018年度入試はさらに定員超過是正のための基準が厳しくなるため、厳しい戦いになりそうです。

河合塾資料より



◆補欠合格者の増加 ～高い倍率の中「合格」を手にする力の必要性～

この春卒業した先輩たちも、補欠合格の繰上りをギリギリまで待っていた人が多くいました。2017年度入試は前年以上に補欠合格者を出した大学が多かったようですが、合格を手にした人は少なかったようです。なかでも早稲田大は約2500人の補欠合格を出していましたが、例年数百人の合格者が出るところ、今年の合格は87名。この状況の影響が段階的に各大学に広がったのが2017年度入試でした。

◆志願者増・合格者減の高倍率

大学 グループ別	志願者数	合格者数	倍率 志願者/合格者	
	前年比	前年比	2016	2017
早慶上理	105%	96%	4.7	5.1
MARCH	106%	92%	4.7	5.4
日東駒専	113%	98%	3.5	4.1
成成明國武	108%	96%	3.9	4.4
理系10大学	106%	115%	4.3	4.0
女子13大学	109%	95%	2.4	2.8

成成明國武

成城・成蹊・明治学院
國學院・武蔵

理系10大学

千葉工業・北里・工学院・芝浦工業・
東京工科・東京電機・東京都市・
東京農業・麻布・神奈川工科

女子13大学

大妻女子・学習院女子・共立女子・
白百合女子・実践女子・昭和女子・
聖心女子・清泉女子・津田塾・
東京女子・日本女子・
東洋英和女学院・フェリス女学院

学部系統別	志願者数	合格者数	倍率 志願者/合格者	
	前年比	前年比	2016	2017
文・人文	105%	94%	3.1	3.4
社会・国際	117%	97%	3.2	3.8
法・政治	106%	89%	3.2	3.8
経済・経営・商	115%	97%	3.5	4.1
理	97%	101%	3.0	2.9
工	106%	106%	3.4	3.4
農	107%	106%	3.6	3.7
医	102%	100%	17.2	17.5
歯	95%	107%	3.1	2.7
薬	96%	101%	3.5	3.4
看護	104%	104%	3.2	3.2
医療技術・他	101%	104%	2.9	2.9
生活科学	97%	100%	2.8	2.7
芸術・スポーツ科学	107%	98%	3.1	3.4
総合・環境・情報・人間	111%	95%	3.3	3.8
全体	108%	98%	3.3	3.7

文系では全系統で志願者が増加。

工学部では建築が人気。

農学部は東京農業大学部新設の影響か。

医学部は国際医療福祉大学成田キャンパス新設の影響があるが、全体的には減。

◎夏休みを利用して併願校候補を考えよう

第一志望校の合格を手にするためには、弱点克服や過去問研究なども欠かせませんが、入試日程も重要なポイントになります。志望順位の高い大学の受験日の前に、合格を手にしておくことで、精神的にも余裕をもって試験に臨むことができます。前述の通り、次の入試も厳しい戦いが予想されます。だからこそ、しっかりと戦略を練って受験に臨めるよう、夏休みのうちに併願校の下調べをしっかりとしておきましょう。

◆私立大 2期入試での合格状況

	合格者 前年比		合格者 前年比
成蹊	125%	東洋	58%
成城	31%	武蔵	83%
専修	75%	明治	81%
東京農業	981%	明治学院	81%

★入学定員厳格化の影響はここにも

1期である程度合格を出すと、2期は調整のため合格者を絞る傾向が高まっています。慎重に考えましょう。

また、前年定員充足率が高い大学は翌年絞るので、大学ごとの入試データをしっかり確認しましょう。

◎AO入試の利用 ～利用する前にもう一度よく考えて

- ①チャンスが増えるけれど、リスクもあることを理解しているか
- ②事前準備にかかる時間を見極めているか（一般入試準備との両立ができる状況か）
- ③大学のアドミッションポリシーを理解して受験を決めているか。